

日本学論叢 V

(大学院碩士論文選集)

北京日本学研究中心

人民教育出版社

日 本 学 論 叢 V

（大学院碩士論文選集）

日本学研究センター 編

人民教育出版社

北京日本学研究センター

主 任 李 德
主任教授 池 田 温
主任代行 李 書 成
副 主 任 陳 海 良

編集委員会

中国側：李書成（委員長） 周維宏 李慶祥 唐 磊 張龍妹

日本側：大谷通順（委員長） 犬飼公之 山野正彦 柄沢行雄 飯野清士 市瀬智紀

（京）新登字113号

日本学论丛V

北京日本学研究中心編

人民教育出版社出版发行

北京外文印刷厂印装

开本787×1092 1/16 印张17.25 字数385,000

19 94 年 3 月第 1 版 19 94 年 3 月第 1 次印刷

印数 1—1,370

ISBN 7—107—11110—8

G · 3445 定价12.10元

まえがき

本論文集は、北京日本学研究中心における第3回修士学位審査通過論文のうち、優秀作計8編を編集委員会が選定し、編集したものである。執筆者はすべて1990年1月6日～7日の論文答弁を経て、1992年3月27日に正式に学位を授与されている。

第1回および第2回の修士学位審査通過論文は、すでにおのおの『日本学論叢Ⅰ（大学院碩士論文選集）』、『日本学論叢Ⅱ（大学院碩士論文選集）』として公表されている。本編はそれらに続くものである。

掲載にあたって、各論文の日本語の表現などについては日本派遣教師の校閲を経ているが、訂正はすべて執筆者本人が行なった。指導・選定・編集・校正に当たられた諸先生に感謝の意を表する。

編集委員会
1993年1月

目 次

まえがき	1
言語・文学コース	
洪晨暉：日本語と中国語における自称詞・対称詞の使い分けの実態	1
郭拳昆：日本語における逆接的表現	37
趙 青：空蟬について	
——『源氏物語』における女性人物への考察	69
江新鳳：佐藤春夫と中国文学	
——『車塵集』を中心に	95
胡 稹：日本文学に於ける桜の花の象徴的意味の歴史的変遷	123
社会・文化コース	
袁 娟：日本女性の伝統的家族意識	173
李協京：清末中国における日本モデルの教育改革	207
杜武媛：親鸞における救いの論理	
——その罪惡の思想をめぐって	241

日本語と中国語における 自称詞・対称詞の使い分けの実態

洪 晨 暉

指導教官 真田信治 助教授

1993年4月

=

=

=

-

-

-

=

=

=

-

-

-

=

=

=

-

-

-

=

=

=

日本語と中国語における 自称詞・対称詞の使い分けの実態

北京外国語学院日本学研究センター
洪晨暉（三期生）

はじめに

1. 本研究の目的

日本語には人称代名詞の数が非常に多い。これは日本語を学ぶ人なら、誰でも感じていることであると思う。日本語の人称代名詞を中国語や、英語の人称代名詞と比較した場合、はなはだしく異なる点の一つは、日本語には一人称と二人称に非常に多くの単語があるところである。例えば、一人称ならば、「ワタクシ」、「ワタシ」、「アタシ」、~~ボク~~「ボク」、「オレ」などがあり、一方、二人称ならば、「オタク」、「アナタサマ」、「アナタ」、「キミ」、「オマエ」、「テメエ」などがある。これに対して、現代の中国語では、普通、一人称には「我」、二人称には「你」というように、それぞれ一語しか使わない。

ところが、日本人の生活に深く入り込んでみると、日本人は日常の言語生活のなかで、人称代名詞をしばしば省略したり、親族名、人名、屋号、姓、職業名、地名などを人称代名詞の代わりとして、使ったりしていることが分かる。これに関して、鈴木孝夫氏は『ことばと文化』という本で、次のように述べている。

「日本語のいわゆる狭い意味での人称代名詞は他の語彙から独立した、一つのまとまった語群を、形体論にも機能の見地からも形作っていない以上、これだけを切離して扱う意味がなく、むしろ、親族名称、地位名称など一括して、話し手が自分を表すことば、および相手を示すことばという広い見地に立って、それぞれを自称詞、対称詞と呼ぶ方が適切であるとは私は思っている」。

なお、真田信治先生は、こういう「特定の個々の人物を指し示す（refer）ときに用いる表現の形式を『人称表現形式』と」（注1）呼んでおられる。この「人間表現形式」を構成する要素は親族名、人名、屋号、姓、職業名、地名などである。

本研究では、現代日本語の自称詞、対称詞と現代中国語の自称詞、対称詞の用法を比較し、両者の共通点、相違点を明らかにするとともに、それぞれの自称詞、対称詞の使い分けがどのように両国の社会性を反映しているのかについて考察してみたいと思う。

2. 調査対象

本研究では、事例研究として、日本人男性、日本人女性、中国人男性、中国人女性の一人ずつを代表的なインフォーマントとする。具体的には、日常生活の中で、自分のこと

や、聞き手のことなどをどのようなことばで表しているか、また、それらが聞き手によってどのように変化するかという質問に答えてもらった結果を報告し、考察を試みるものである。

表一 インフォーマントの簡単な履歴

調査対象 履歴	日本人 男 性	中国人 男 性	日本人 女 性	中国人 女 性
年 令	43才	39才	36才	41才
最終学歴	大学院 修了	大学卒業	大学院 在学中	大学卒業
仕 事	教 師	教 師	教 師	教 師
子 供	一人 (女)	一人 (男)	一人 (女)	一人 (男)
よその土地で 5年以上の生 活経験	富山県 宮城県 東京都 大阪府	福建漳州 福建福州	東京都 大阪府	福建羅原 福建福州

第1章 人称に関する基本的な概念と理論

1・1 人称に関する定義及び基本的な概念

言語と社会は非常に密接な関係をもっている。社会生活における人間と人間の接触は言語を通して行われることが多い。それゆえ、言語は人間関係を左右するものであると言えるだろう。会話が成立するためには、話す人と、それを聞く人が必要である。更に話の内容がその他の人や物事に触れることも多い。この関係を区別するのが「人称」である。

『大辞林』によれば、「人称」とは「文法で、言語主体が話し手か、聞き手か、またはそれ以外の第三者であるかの区別をいう」とされている。中国の『辞海』によれば、「人称：也叫身。通過一定的語法形式表示行為動作是屬於誰的、屬於說話人的是第一人称、屬於聽話人的是第二人称、屬於說話人、聽話人以外的是第三人称」とされている。普通、われわれが「人称」を表すものとして、まずとりあげるのは、人称代名詞である。日本語、中国語の例をあげるならば、次のようなものがある。

	日本語	中国語
一人称	{単数 わたし、ぼく・・・	我
	{複数 わたしたち、ぼくたち・・・	我們 咱們
二人称	{単数 あなた、きみ・・・	你
	{複数 あなたたち、きみたち・・・	你們
三人称	{単数 この人、彼、彼女・・・	他、她
	{複数 この人たち、彼たち/ら、彼女たち/ら	他們、她們

ところが、日本人は実際の日常生活においては、「いわゆる人称代名詞も使うが、その他に実に色々な言葉で、対話における自己と相手を指している」（注2）のである。それゆえ、日本語の場合には、対話における自己と相手を指す種々の表現を一括して、自称詞、対称詞としてとらえるほうが有効である。鈴木孝夫氏は自称詞、対称詞について、それぞれ次のように定義している。（注3）

「自称詞とは、発話の中で話者が自分自身を指示したり、自分自身に言及するために用いることをいう。つまり、話者が自分を何と称するかという意味で自称詞なのである。」

中国語やヨーロッパ諸言語では、いかなる場において、いかなる話し相手に対する場合にも、話し手が自分を固定した人称代名詞で表すのが普通であるが、日本語では、多くの一人称代名詞をそれぞれの場に応じて、また話し相手と話し手自身の関係や話し手の性などに応じて、待遇度をさまざまに変化させながら使い分ける。自分自身を称するための自称詞として、ただ、一人称代名詞のみが使われるのではなく、親族名や職業名の代行名なども用いられる。

「対称詞とは、話者が発話に際して、発話の相手を指示したり、あるいは言及したりする語である。つまり、話者が自分の相手として、自分に対峙している人を称する語という意味で、対称詞と呼ぶわけである。」

この言語行為には、性質の異なった二種の用法が含まれる。一つは呼格的用法であり、つまり、話し手が話し相手の注意を自分に向けさせたい時や相手の感情に訴えたい場合などに用いられる語である。本研究が扱う呼格的用法の対称語には、話し相手の固有名、親族名、地位名などだけではなく、話し相手の注意を喚起するために用いるあいさつ語や感動詞なども含まれている。例えば、日本語の「こんにちは!」、「ちょっと」、「もしもし」、中国語の「喂」、「哎」などのような表現である。

もう一つは名詞の代名詞的用法である。つまり、ある文の主語または目的語として用いられる言葉を指したものであるが、内容的には話し相手を指し示す二人称である。

本研究では、対称詞の呼格的用法と名詞の代名詞的用法を区別し、各々の用法に用いられる表現の全てを取り扱った。

日本語では、最も基本的な人間関係である自称と対称において、待遇表現との関連が極めて強い。これは日本の「タテ社会」を反映する相互の身分関係という客観的条件のうえに、話し手のその時の親疎、好悪の感情などの主観的条件がからみあい、いくつもの場面が構成されるためであると思われる。日本語では、英語などの屈折語のように、人称の違

いに応じた関係の動詞の語形変化などは認められず、したがって、言語的な事実から見て、日本語の人称を考えることは、文法論からの説明では不十分であり、むしろ社会環境における対人関係の表現の問題発話理論上の問題、あるいは敬語より広く待遇表現につながる問題などの観点から扱うべきであると言われている。

一方、中国語の人称代名詞はヨーロッパ諸語のように、性、数、格などの文法範疇と関連するものでもなく、待遇表現との関連も日本語ほど深くはない。

本研究の自称詞、対称詞の基本的な概念は鈴木孝夫氏の定義する自称詞、対称詞にしたがって規定することにしたい。ただし、対称詞は「文中対称」という意味を指し、呼格的用法は「呼び掛け語」で示すことにする。

1・2 人称に関する従来研究

人称に関する研究はこれまで決して少なくはなく、いろいろな視点からの研究がなされている。日本語の人称を外国語の人称と比較する形で書かれたものもいくつかあるが、中国語との比較、あるいは中国人による人称研究は非常に少ない。

日本における人称の研究は、まず代名詞（人称代名詞、指示代名詞）をめぐる問題が文法論上の問題として日本の国語学者の間でよく論じられた。中でも、代名詞のとらえ方が研究の中心であった。その後、代名詞、とりわけ人称代名詞と敬語との関連が注目され、待遇表現としての人称代名詞の問題が広く議論されるようになった。そして、研究分野がさらに拡大され、文化人類学、社会言語学などの立場からの研究も進められるようになり、今日に至っている。ここでは、社会言語学的な立場からの研究を少々概観してみたい。

社会言語学的な立場からの研究は、人間関係による自称詞、対称詞の使い分けについての研究が中心である。鈴木孝夫氏はこの分野を代表する研究者だといえるであろう。鈴木氏は自称詞、対称詞についていくつかの論文を発表している。「日本人の言語意識と行動様式」（注4）という論文では、主に人間関係の把握の様式について述べている。鈴木氏はこの論文の中で、家族内での自称詞と対称詞の使い方の規則、及び家族外での自称詞と対称詞の使い方の規則を説明し、自称詞と対称詞の構造についても分析している。鈴木氏によると、日本人の自称詞、対称詞の一番基本となるものは、目上と目下という対立概念だということである。話者は話し相手が目上の人か目下の人かによって、違う自称詞及び対称詞を使う。また、「家族内における自称詞、対称詞の使い方の原則は、殆どそのまま、家族外の社会的状況にも拡張的にあてはまる」のである。鈴木氏は更に日本語の自称詞、対称詞の構造とヨーロッパ諸語の自称詞、対称詞の構造を比較して、日本人の言語的自己規定の特徴は「自己を先ず相手の立場に同化させた後に、相手からの関係で自己を規定するという対称依存型である」と指摘している。また「言語と社会行動」（注5）という論文では、言語と社会の関係や現代日本語の対人関係用語、及び日本語と印欧諸語の人称代名詞との比較などを論じている。さらに「自称詞と対称詞の比較」（注6）という論文では、日本語の自称詞、対称詞と英語の自称詞、対称詞の具体的な関連づけの実例も示している。

日本語と英語との比較に関しては、F.C・パン氏の「呼称の社会学——日米の比較」

(注7)という論文もある。F. C・パン氏は日米両国の家族構成から日本語の親族呼称と英語の親族呼称の特徴を分析し、また、家族以外の呼称の人間関係についても論じている。それによると、家族関係以外の呼称の人間関係は大きく二つ分けられる。「親近感 (intimacy) を指す呼称と地位 (status) を指す呼称である。親近感を指す呼称は「話者同志が、互いに、上下の関係に構わず、タイトル+名字、または名前で呼びあう言語行為を指す」ものである。一方、地位を指す呼称は「話者がタイトルや名字で、相手呼んだとすると、今度は聞き手として、相手から、名前だけで呼び捨てられる」というような「不平等な呼称の交換」がなされるものである。F. C・パン氏の日米呼称の比較結果として、注目すべき点の一つは、呼称に表れた人間関係から見て「アメリカよりも日本の方が家族関係と家族以外の人間関係を分ける傾向が強い」という点である。

また、David Ashworth 氏による「文化に関わる日本語の代名詞」(注8)という論文もある。この論文も社会言語学的な立場から書かれたものである。David Ashworth 氏は「それぞれの代名詞のいいたてに関係する社会文脈的な背景や、日本人の社会における、個人の『自己対他人』の意識性の発達といった、相互に密接な関係を持つ二つの要因から、どうやら、代名詞のいいたての動機づけを説明することができそうです。」と指摘している。David Ashworth 氏は日本語を英語と比べて、「英語が、それぞれの代名詞について、単一のいいたてを用いるのは、孤立させられている個体としての一個人の見方を裏づけるものといえるでしょう。一方、日本語の方は、一個人について多くのいいたてを用い、それらのおおのいいたては、直接、間接にその中で自己イメージが発展する人間関係の状況を暗示しています。」と述べている。Ashworth 氏は更に日本語の代名詞の弁別的特徴についても分析している。

一方、日本語と中国語との比較研究はいまだにごく少ないといえる。手持ちの資料から見ると、小論文は二つしかない。一つは蘇徳昌氏の「中国語——日中の呼称——」(注9)で、日中の呼び掛け語の比較を中心としたものである。蘇氏はこの論文の中で、称呼の構造によって日本語と中国語の呼び掛け語の共通点、相違点を説明している。とりわけ日本語の「さん」と一対一で対応するような称呼表現が中国語にはなく、場合によって、相手の年令、性別、職業、身分によって違う訳し方を選ばねばならないということを指摘している点が注目される。また、日本語の呼び捨てと中国語の呼び捨ての使い分けについても説明している。もう一つは董将星氏の「中国語の対称詞をめぐって」(注10)という小論文である。中国語の呼称と日本語の呼称との比較を中心に中国語の対称詞の使い方を論じたものである。対称代名詞や家族内、家族外における呼称の使い分けを比較的詳しく説明している。しかし、残念なことに、これらの論文は社会言語学の立場から研究されたものではなく、また、自称詞の使い方にも全然触れていない。そこで、本研究では、社会言語学的なアプローチにより、日本語と中国語における自称詞、対称詞の使われ方の実態を明らかにし、両者を比較考察することにする。

第2章 現代日本語と現代中国語 における自称詞・対称詞の比較

2・1 調査の概要

前章では、自称詞、対称詞に関する基本的な概念と理論を簡単に説明したが、本章では、日本人と中国人が具体的な場面において、自称詞、対称詞をどのように使っているかを明らかにする。その際、特に双方の用法上の共通点および相違点に注目することにした。

日本語と中国語の自称詞、対称詞の使い分けをはっきりさせるために、「はじめに」のところで述べてきたように、日本人男性、中国人男性、日本人女性、中国人女性を一人ずつインフォーマントとして選び、いろいろな場面を設定して、調査を実施した。場面設定は大きく二つに分けられる。一つは家族の人との対話における自称詞、対称詞の現れ方である。これはさらに次の三つの部分に分けられる。

- ①夫婦間の対話
- ②親子間の対話
- ③父母との対話

もう一つは家族以外の人との対話における自称詞、対称詞の現れ方である。これもさらに次の三つの部分に分けられる。

- ①友人との対話
- ②同僚との対話
- ③未知の人との対話

詳しい場面設定は表二に示した通りである。ここでは、日本人と中国人が日常生活の中で、どのような自称詞、対称詞を使うかということを調査の主目的とした。それゆえ、場面設定に際しては、できるだけ日常生活にありうるもので、なおかつ、特定の社会に限定されない普通のものを覆うような形になるよう努めた。また、インフォーマントは、さまざまな場面設定に対応できる人物という条件から30代——40代の既婚の人を選ぶことにした。「家族の人との対話」における場面の一部分は『言語生活』143（1963）に掲載された「家族の呼び方」（注11）のアンケート調査票の一部を利用した。なお、インフォーマントには主格か所有格かにこだわらず、自称詞、対称詞を使いやすい場面を考えてもらったのである。インフォーマントの人数が少なく、また、ひとりひとりの家族状況、職場での地位、その他自分自身の内省なども微妙なため、この調査結果から日中両言語の自称詞、対称詞の使い分けの全てを明らかにすることができない。しかし、この調査によって、少なくとも日中両言語の自称詞、対称詞の基本的なシステムは明らかにすることができると思われる。

表二

家族の人との対話における現れ方

場	面
↑	1. 二人だけが同じ部屋にいて、本を読んでいる妻(夫)に対する時
↑	2. (男)と同じ状況で、子供がそばにいる時
↑	3. 家族の皆さんと食事をしている時
↑	4. 二人だけの時、妻(夫)が隣の部屋にいる時
↑	5. 二人だけの時、妻(夫)と口論中
↑	6. (女)と同じ状況で、子供がそばにいる時
↑	7. 自分の友人が家に来ている時
↑	8. 妻(夫)の友人が家に来ている時
↑	9. 実父母がそばにいる時
↑	10. 義父母がそばにいる時
↑	11. 子供ができる前はどっだったでしょう
↑	12. 子供が生まれる前、一緒に出かける時ちよっとどこかによっている時
↑	13. (12)と同じ状況で、子供が生まれた後、どっだったでしょう
↑	14. 電車の中で、まったく知らない人がそばにいる時
↑	15. 妻(夫)と一緒に妻(夫)の友人の家にいる時
↑	16. 妻(夫)と一緒に妻(夫)の恩師の家にいる時
↑	17. 妻(夫)と一緒に自分の友人の家にいる時
↑	18. 妻(夫)と一緒に自分の恩師の家にいる時
↑	19. 義父母の家にいる時
↑	20. 妻(夫)と一緒に自分の兄弟の家にいる時
↑	21. 妻(夫)が自分の職場に電話をかけてくる時
↑	22. 家族全員がそばにいる時
↑	23. 子供と二人だけにいる時
↑	24. 子供と改まって話し合う時
↑	25. 子供をしかる時
↑	26. 子供の友達をそばにいる時
↑	27. 友人がそばにいる時
↑	28. 子供をつれて、友人の家にいる時
↑	29. 子供をつれて、恩師の家にいる時
↑	30. 子供をつれて、実父母の家にいる時
↑	31. 子供をつれて、義父母の家にいる時
↑	32. 外で子供に会う時
↑	33. 実父母と一緒にいる時
↑	34. 妻(夫)がそばにいる時
↑	35. 子供がそばにいる時
↑	36. 他人がそばにいる時
↑	37. 義父母と一緒にいる時
↑	38. 妻(夫)がそばにいる時
↑	39. 子供がそばにいる時
↑	40. 他人がそばにいる時

家族以外の人との対話における現れ方

場	面
↑	1. 友人が家に来ている時、家族全員と一緒に食事をしている時
↑	2. 一緒にどこかに行くとき友人を試う時
↑	3. 友人と何か話したいことがある時
↑	4. 何か嬉しいことがあって、友人に告げる時
↑	5. 外で友人に出会う時
↑	6. 友人のことを怒っている時
↑	7. 異性の友人に対する時
↑	8. 家で上司を食事に招く時
↑	9. 仕事についてのことを上司に聞いている時
↑	10. 上司と改まって話し合う時
↑	11. 年上の先輩と何か話し合う時
↑	12. 年下の先輩と何か話し合う時
↑	13. 同年代の先輩と何か話し合う時
↑	14. 年上の同僚と話し合う時
↑	15. 年上の同僚と冗談をしている時
↑	16. 上司に間違ったことを謝る時
↑	17. 外で上司に出会う時
↑	18. パーティの時、上司と楽しく話し合う時
↑	19. 部下と仕事についてのことを話し合う時
↑	20. 部下を誘って、どこかへ行く時
↑	21. 部下が何か過ちをして、自分が怒る時
↑	22. 部下と改まって話し合う時
↑	23. 年上の部下に対する時
↑	24. 同年代の同僚と話し合う時
↑	25. 学生に対する時
↑	26. もともとは自分の教え子でしたが、いまは自分の同僚になった人に対する時
↑	27. 3才〜5才の子供
↑	28. 小学生
↑	29. 中学生、高校生
↑	30. 大学生らしい人
↑	31. 20代のサラリーマン、OLらしい人
↑	32. 20代の高売をじている人
↑	33. 20代のウェーター、ウェイトレス
↑	34. 20代の俳優
↑	35. 40代のお医者さん
↑	36. 40代のバスの運転手さん
↑	37. 40代のお巡りさん
↑	38. 身なりのよい老人
↑	39. 身なりのあまりよくない老人
↑	40. 60代の学者風の人

表三

家族の人との対話における現れ方

場面	自称詞	日本人男性				中国人男性		
		人稱代名詞		親族名		人稱代名詞	親族名	
		オ レ	ボ ク	バ バ	オ ヤ ジ ン	我	爸爸	
家の中で	1. 二人だけが同じ部屋にいて、本を読んでいる妻(夫)に対する時	○				○		家族間の対話
	2. (1)と同じ状況で、子供がそばにいる時	○				○		
	3. 家族の皆さんと食事をしている時	○				○		
	4. 二人だけの時、妻(夫)が隣の部屋にいる時	○				○		
	5. 二人だけの時、妻(夫)と口論中	○				○		
	6. (5)と同じ状況で、子供がそばにいる時	○				○		
	7. 自分の友人が家に来ている時	○				○		
	8. 妻(夫)の友人が家に来ている時		○			○		
	9. 実父母がそばにいる時	○				○		
	10. 義父母がそばにいる時		○			○		
	11. 子供ができる前はどなたでしたしょう		○			○		
家の外で	12. 子供が生まれる前、一緒に出かける時ちょっとどこかによっている時					○		親子間の対話
	13. (12)と同じ状況で、子供が生まれた後、どなたでしたしょう	○	○			○		
	14. 電車の中で、まったく知らない人がそばにいる時	○	○			○		
	15. 妻(夫)と一緒に妻(夫)の友人の家にいる時		○			○		
	16. 妻(夫)と一緒に妻(夫)の恩師の家にいる時		○			○		
	17. 妻(夫)と一緒に自分の友人の家にいる時	○				○		
	18. 妻(夫)と一緒に自分の恩師の家にいる時		○			○		
	19. 義父母の家にいる時		○			○		
	20. 妻(夫)と一緒に自分の兄弟の家にいる時	○				○		
	21. 妻(夫)が自分の職場に電話をかけてくる時		○			○		
	22. 家族全員がそばにいる時	○		○			○	
家の中で	23. 子供と二人だけにいる時			○			○	親子間の対話
	24. 子供と改めて話し合う時				○		○	
	25. 子供をしかる時	○		○		○		
	26. 子供の友達がそばにいる時	○			○		○	
	27. 友人がそばにいる時			○	○		○	
	28. 子供をつれて、友人の家にいる時			○	○		○	
	29. 子供をつれて、恩師の家にいる時				○	○		
	30. 子供をつれて、実父母の家にいる時			○			○	
	31. 子供をつれて、義父母の家にいる時			○			○	
	32. 外で子供に会う時				○	○		
	33. 実父母と一緒にいる時	○				○		
実父母に	34. 妻(夫)がそばにいる時	○				○		父母との対話
	35. 子供がそばにいる時	○				○		
	36. 他人がそばにいる時	○				○		
	37. 義父母と一緒にいる時		○			○		
	38. 妻(夫)がそばにいる時		○			○		
	39. 子供がそばにいる時		○			○		
	40. 他人がそばにいる時		○			○		

2・2 家族の人との対話における自称詞、対称詞の日中比較

2・2・1 日本人男性と中国人男性が家族の人と対話する時

使用する自称詞、対称詞の比較

まず、日本人男性と中国人男性が家族の人と対話する時の自称詞の使い方を比較してみたい。表三は日中両国の男性が家族の人と対話する時に用いる自称詞についてまとめたものである。この表から見ると、両国の男性が使う自称詞には、人称代名詞と親族名があることが分かる。妻や父母を相手とする場合には、第一人称代名詞を用いる。一方、子供に対する時には、人称代名詞をとともに使うが、親族名を用いる場合が圧倒的に多い。

日本人男性が家族の人との対話で用いる自称詞は人称代名詞の「オレ」、「ボク」と親族名の三つである。妻や子供や実父母に対して、家の中では、「オレ」がよく使われるが、家の外では、「オレ」の他に「ボク」もわりあい多く使われる。また、義父母に対しては、「オレ」を絶対に使わず、「ボク」を使う。インフォーマントの内省によれば、「オレ」は普通インフォーマルな場合に使い、「ボク」はやや改まった場合に使うものであるという。子供が相手の場合には、いつも、「親族名」を用いるが、家の中では、時々第一人称代名詞の「オレ」を使うこともある。

一方、中国人男性の場合には、日本人と違って、人によって、場合によって、あまり自称詞を使い分けない。そういうバリエーションが少ないのである。どのような場合でも、どういう相手に対しても、第一人称代名詞の「我」を使うことができる。もちろん、小さい子供に対する時には、親族名で自称することもある。ただし、中国では、子供が大きくなるにつれて、子供に対する自称詞は「親族名」から第一人称代名詞の「我」に変わっていく傾向がある。もしもう大人になっている自分の子供に対して、「親族名」で自称したら、その子供を幼い子として見做しているのである。

さて、今度は両国の男性が家族の人と対話する時に使う文中対称詞を少々比較してみたい。表四から見ると、両国男性が使う対称詞には、同じく、人称代名詞、固有名、親族名がある。日本人男性が使う人称代名詞には「オマエ」と「キミ」の二つがあるが、中国人男性の場合には、「你」だけである。表三と表四を比べてみると、妻に対する時、自称詞として「オレ」を使う場合には、対称詞は必ず「オマエ」になり、自称詞が「ボク」である場合には、対称詞は必ば「キミ」になることが分かる。それゆえ、「オレ」と「オマエ」、「ボク」と「キミ」は一つのペアになっているといえるであろう。また、子供ができる前と後とで、妻に対して使う自称詞及び対称詞が違うということも表三、表四の比較から分かる。子供ができた後、妻に対して、親族名の「ママ」を使うケースもある。今回のインフォーマントは子供に対して固有名のみを用いているが、これは人によって違い、人称代名詞を使う人もいる。だが、父母に対する時には、人称代名詞を決して使わず、親族名を使う。なお、実父母に対する時に使う対称詞と義父母に対する時に使う対称詞が違う点も注目に値する。

これに対して、中国人男性は家族の人であれば、誰に対しても人称代名詞を使える。子供に対する時、人称代名詞「你」を使うとともに、名前（又は愛称）もよく使われる。同様に、父母との対話でも、人称代名詞と親族名を両方とも使うが、文中対称の場合には、

表四

家族の人との対話における現れ方

対 称 詞	日本人男性							中国人男性				
	代名詞	固有な	親族名	代名詞	固有な	親族名	代名詞	固有な	親族名	代名詞	固有な	親族名
	オマエ	キミ	名前	ママ	オヤジ	オフロ	オヤシ	あなた	名前	愛称	名前	親
1. 二人だけが同じ部屋にいて、本を読んでいる妻(夫)に対する時	○							○				
2. (1)と同じ状況で、子供がそばにいる時	○			△				○				
3. 家族の皆さんと食事している時	○							○				
4. 二人だけの時、妻(夫)が隣の部屋にいる時	○							○				
5. 二人だけの時、妻(夫)と口論中	○							○				
6. (5)と同じ状況で、子供がそばにいる時	○							○				
7. 自分の友人が家に来ている時	○							○				
8. 妻(夫)の友人が家に来ている時	○							○				
9. 実父母がそばにいる時	○							○				
10. 義父母がそばにいる時	○							○				
11. 子供ができる前はどっただったでしょう	○							○				
12. 子供が生まれる前、一緒に出かける時ちょっとどこかによっている時	○							○				
13. (12)と同じ状況で、子供が生まれた後、どっただったでしょう	○							○				
14. 電車の中で、まったく知らない人がそばにいる時	○							○				
15. 妻(夫)と一緒に妻(夫)の友人の家にいる時	○							○				
16. 妻(夫)と一緒に妻(夫)の恩師の家にいる時	○							○				
17. 妻(夫)と一緒に自分の友人の家にいる時	○							○				
18. 妻(夫)と一緒に自分の恩師の家にいる時	○							○				
19. 義父母の家にいる時	○							○				
20. 妻(夫)と一緒に自分の兄弟の家にいる時	○							○				
21. 妻(夫)が自分の職場に電話をかけてくる時	○							○				
22. 家族全員がそばにいる時	○							○				
23. 子供と二人だけにいる時	○							○				
24. 子供と寝ながら話している時	○							○				
25. 子供をしかる時	○							○				
26. 子供の友達がそばにいる時	○							○				
27. 友人がそばにいる時	○							○				
28. 子供をつれて、友人の家にいる時	○							○				
29. 子供をつれて、恩師の家にいる時	○							○				
30. 子供をつれて、実父母の家にいる時	○							○				
31. 子供をつれて、義父母の家にいる時	○							○				
32. 外で子供に会う時	○							○				
33. 実父母と一緒にいる時	○							○				
34. 妻(夫)がそばにいる時	○							○				
35. 子供がそばにいる時	○							○				
36. 他人がそばにいる時	○							○				
37. 義父母と一緒にいる時	○							○				
38. 妻(夫)がそばにいる時	○							○				
39. こどもがそばにいる時	○							○				
40. 他人がそばにいる時	○							○				